

日時 7月27日(水) 13:30~16:30

テーマ すべての児童・生徒がわかって参加できる授業づくり  
~アクティブラーニングとユニバーサルデザインの視点から~

講師 立命館大学講師 河原 和之 氏



第5回公開講座は、夏休みの大変暑い日でしたが、小・中・高、特別支援学校、教育局から124名の参加者を迎えての実施となりました。申込者多数のため場所を変更し、京都府立宇治支援学校ランチルームで行いました。

今回の講師は立命館大学など他数の大学で講師をされている河原和之先生です。東大阪市の中学校で長年にわたり社会科の授業実践をされ、現在も生徒が生き生きと参加できる授業づくりについて研究されています。

講義では、まず授業の3つのキーワード「アクティブラーニング」「ユニバーサルデザイン」「キーコンピテンシー」について説明されました。その後、河原先生による模擬授業をとおしてアクティブラーニングを体験しました。子どもが間違えても恥ずかしくないような発問をすること、子どもが知りたいことを大切にしつつ知識につなげていくこと、学習・分析したことは別の場面でも役立つことを意識して授業をすること、教材研究の大切さなど、具体的な授業のポイントについての解説を交えながらの授業でした。もっと知りたい!と思えるような資料や、クイズ、ビンゴ、グループ学習などが満載で、思わず夢中になって考えてしまう楽しい授業でした。参加者は河原先生の授業を受けながら、校種や教科が違って、授業づくりの視点として大切なことは何か教えていただくことができました。



後半は、河原先生が御出演されたNHK教育テレビ「わくわく授業 わたしの教え方」のビデオを見せていただいた後、河原先生の授業のネタについてたくさんお話しいただきました。河原先生の教壇でのパワフルで情熱的な様子が伺える講演でした。

#### <参加者アンケートより 感想(一部抜粋)>

- ・生徒の立場に立って、生徒がわかる筋道をイメージしながら授業づくりをすることの大切さを改めて考えさせられました。生徒が自分から深めていきたくなるような授業ができれば最高です。
- ・春に大学を卒業したばかりです。「あんなことを教えたい」「こんな実践をしたい」ということが先行していたことに気付かされました。今後は子どもたちの知りたいことをもっと授業に取り入れていきたい。
- ・中学校で社会を教えています。今回の講座は目からウロコでした。教材研究の大切さを再確認しました。
- ・子どもが知りたいことと教師が教えたいことをどう一致させ授業を作るか、考えさせられました。2学期を迎えるまでの大切な宿題になりました。

第6回、第7回公開講座は、「聴覚障害児のきこえと支援」および「弱視通級学級における実践に学ぶ」と題して実施いたしました。第8回は京都府南部弱視学級保護者向けの講座を9月28日(水)に予定しています。

第9回は10月15日(土)に「きこえにくい子どもたちのことばの理解、表現力」をテーマに実施します。第9回の参加者対象は京都府内(京都市を除く)の公立小・中・高・特別支援学校等教職員です。